



高松空港に米軍のヘリコプター3機が緊急着陸（16日）した問題で、「郷土がわを戦場にするな！」県民連絡会と、明るい民主県政をきずく香川県連絡会は

## 高松空港に米軍ヘリ緊急着陸 県に真相究明など要請

23日、県に対し、緊急着陸の真相究明を申し入れました。その後、県庁前で報告集会を開き、約30人が参加しました。

米軍ヘリコプター3機は16日午後2時半頃、高松空港に緊急着陸し、約2時間後に離陸しました。2団体は、▽米軍ヘリの飛行目的やルート、所属を明らかにし、緊急着陸の原因を明確にする。▽高松空港の特定利用空港の指定を拒否し、高松港とともに軍用化を許さない意思を明確にすることなどを要請しました。



定価 月 100円  
発行所 民主香川社  
高松市藤塚町3丁目13-14  
電話(087)834-7311

## 高松駅前で怒りの年金行動

全日本年金者組合香川県本部は県下各支部と2カ月ごとの年金支給日の15日、物価上昇を上回る年金引き上げを求めてJR高松駅前で年金一揆の集会や宣伝をしました。30分で31筆の署名が寄せられました。県本部の田中金春会長は「自公政権が衆参で少数与党になった。運動をひろげ年金を引き上げる絶好のチャンスだ」とあいさつしました。亀山正昭さん（88）は「物価が上がって生活は大変で年金制度は変わらないのに、武器をアメリカから爆買いするような大軍拡を止めて、国民本位の政治をつくらなければならぬ」と述べました。通りがかった人は「医療費や物価はどんどん上がる



のに、年金は下がるばかりで困る」と語り署名に応じました。

### 10月26日付 民主香川第2040号の訂正

- ・1面「太鼓台」の文中「夢に向かっていきながら」は「**腕**（もが）きながら」、19行目「消化」は「昇華」が正しい
- ・2面「ストップ・温暖化③」は④が正しい
- ・同QRコードの絵解きは「レポート3030」は「レポート2030」が正しい
- ・4面「猫のしっぽ」上段12行目「ゴビ沙漠」は「砂漠」に

### これからの社会保障を考える

#### 高齢化、人口減少

#### そして「大軍拡」の流れの中で 28

社会保障のあり方について考える会 準備会 藤井 明

### 「新自由主義」の時代と「社会保障」①

前回までで、「政策」としての「社会保障」が20世紀に成立し、それが「権利」としての「社会保障」へと発展していく過程を振り返りました。中でも重要だと思われるのは、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことなどを背景として、「生存権」をその基本とする「社会権」の概念が成立したことでした。ところが、1970年代に台頭し、1980年代にその政治的影響力を強めた「新自由主義」の経済思想はそれらを否定する傾向が強く、その流れの中で、日本をはじめとして多くの国が、「社会保障」の縮小、或いは切り捨ての方向に舵を切りました。

20世紀末から21世紀へと移る時期は、1974年から75年にかけて不況が押し寄せ

るとともに、高度経済成長も終わりを告げると言う大きな経済的変化が進んだ時代でした。それはまた、1930年前後の世界大恐慌を経て、ケインズ理論に基づく施策によって一時は持ち直していた資本主義的な経済システムの矛盾と混乱が再び顕在化しはじめたという事でもありました。

「新自由主義」は、ケインズ経済学を根拠とする施策を徹底してもなお経済がうまく回らなくなつてその有効性が疑問視され始めたことを背景とし、それに代わるものとして考え出され、その後の指導的な経済思想として台頭したものだと言えます。それはまた、このままだと自分たちの優位な地位が脅かされると感じた資本家階級の意識を背景として、資本主義的経済システムの延命を図るために考え出された経済思想と施策の体系でもありました。

けて成立した「古典派経済学」やその後の「新古典派経済学」も、「自由な経済活動が経済を発展させる」と言う立場でしたが、「新自由主義」が主張するのは、それらとは異なる極端な「自由」であり、保護や規制は全て取り払うべきだ、という考え方が基本です。また、新自由主義的な自由競争は「自己責任論」と対をなすもので、「社会保障」は「過度な保護」であつて、「権利」どころか、「非効率で競争を妨げるもの」、或いは「社会を停滞させるもの」とされます。

このたび総理大臣となった高市氏も2012年、当時は野党だった自民党が「生活保護ハッシング」を主導した頃「さもし顔してもらえるものはもらおうとか、弱者のフリして少しでも得をしよう、そんな国民ばかりになったら日本国は滅びてしまいます」と述べたそうですが、新自由主義の時代を象徴する発言だと思えます。



## 太鼓台

先日、私が作ったベリカンのくちばし（針金や布地を張り付けたもの）が出てきました。国語のことばを理解させる小道具の一つでした。ことばにこだわって授業をしてきたつもりです。『次から次へ』は子どもたちを売り手と買い手に分けて、売り手は紙皿にマグネットを乗せた商品を途切れることなく渡していく。買い手も途切れることなく商品を買う。「みんなのことが、次から次ということなんだよ」

『何もなくなった』という説明は、初めにあったものの絵（たわわに実ったスモモ、戦争に行った兄さん、家族の笑顔、家畜のヤギ、にぎやかな街、行き交う人々）を黒板いっぱい貼っていて、子どもたちとのやりとりで、「たわわに実ったスモモは？」「ない」「兄さんは？」「帰ってない」というように黒板の絵を外して、黒板だけになった状態を「何もなくなった」ということわかる？」シーンとなつてうなずきました。【S・W】

### 岡田まなみ高松市議が市政報告会

日本共産党の東部地区委員会では21日、岡田まなみ市議による高松市政報告会を同市で開き、約30人が参加しました。

藤沢やよい市議と田辺健一東部地区委員長があいさ

報告集会で、県民連絡会の共同代表で日本共産党の樫昭二県議は「年間210万人が利用する四国でも最大級の民間空港に米軍機が着陸していいのか。県は国に対し、米軍機の緊急着陸の原因や目的も追及しないことが明らかになった」と批判しました。



つしました。

岡田氏は「地方自治は別名、民主主義の学校。地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることが基本だ」と強調。「自民党は総裁選だ。」【2面に